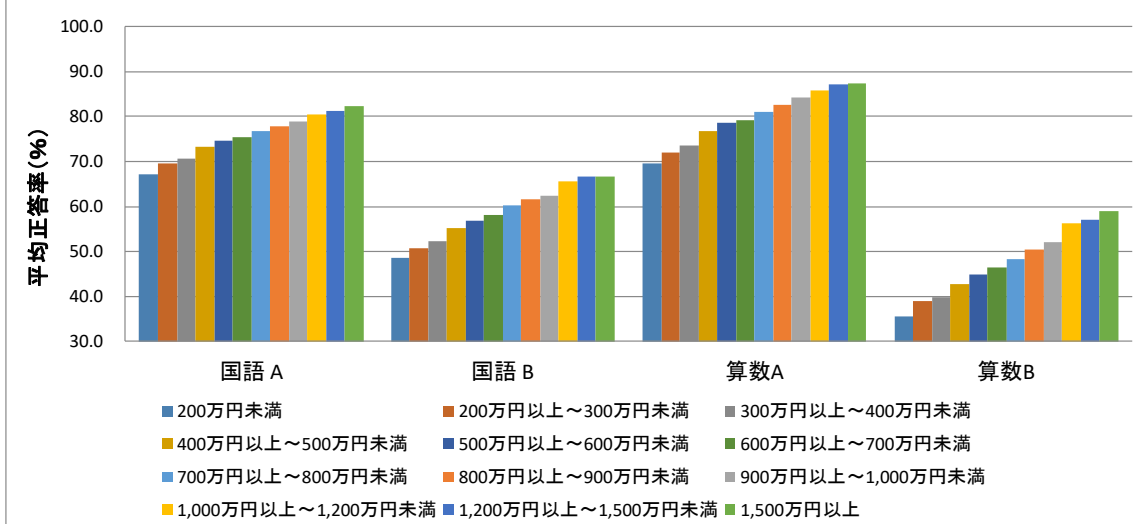


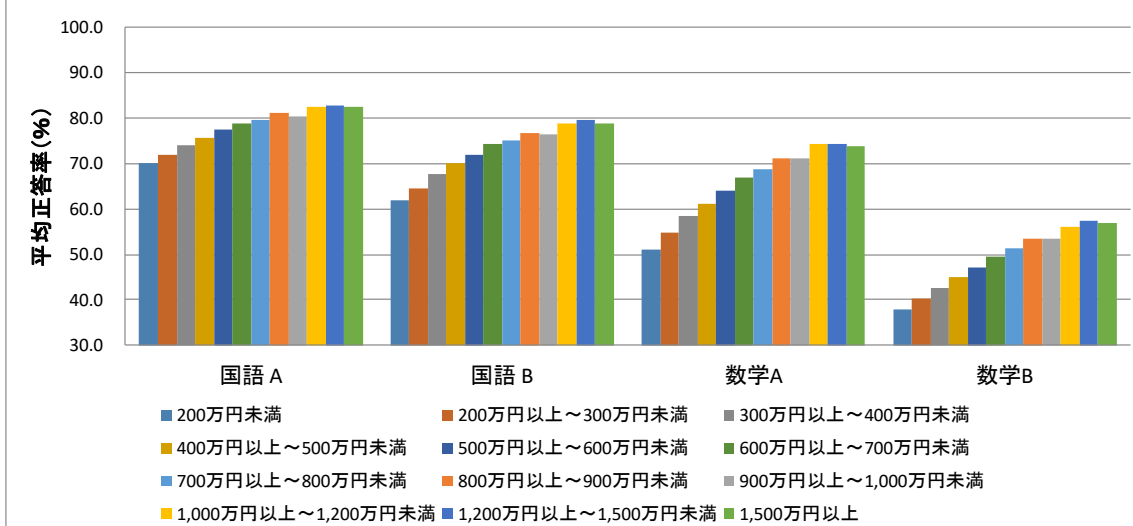
6章 家庭背景と学力との関係

図1-1 世帯収入と学力との関係:小学6年
(2017年全国学力・学習状況調査の補完調査)



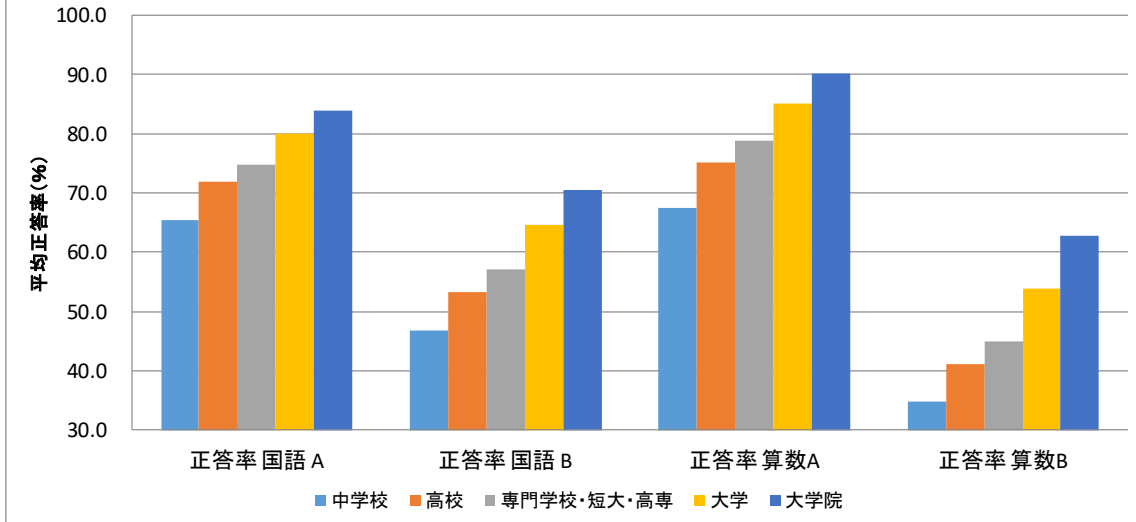
注) 国立大学法人お茶の水女子大学, (2018) 『保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究』から作成。各科目正答率の平均(標準偏差)は、国語 A : 74.8(18.7)、国語 B : 57.4(24.2)、算数 A : 78.6(20.5)、算数 B : 45.9(23.9)である。

図1-2 世帯収入と学力との関係:中学3年
(2017年全国学力・学習状況調査の補完調査)



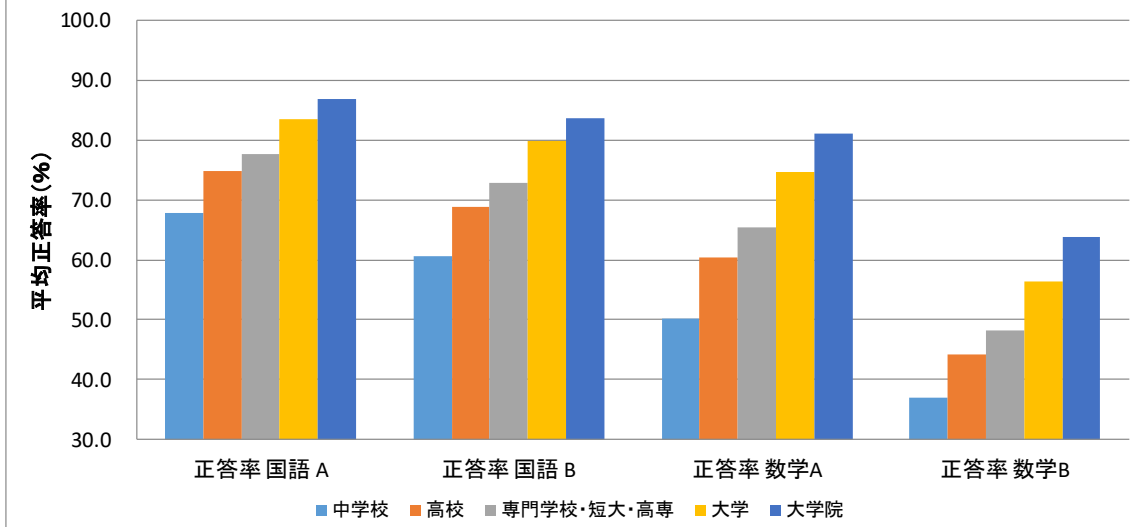
注) 国立大学法人お茶の水女子大学, (2018) 『保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究』から作成。各科目正答率の平均(標準偏差)は、国語 A : 77.3(17.7)、国語 B : 72.0(25.0)、数学 A : 64.5(23.4)、数学 B : 47.9(21.6)である。

図2-1 父親学歴と学力との関係:小6
(2017年全国学力・学習状況調査の補完調査)



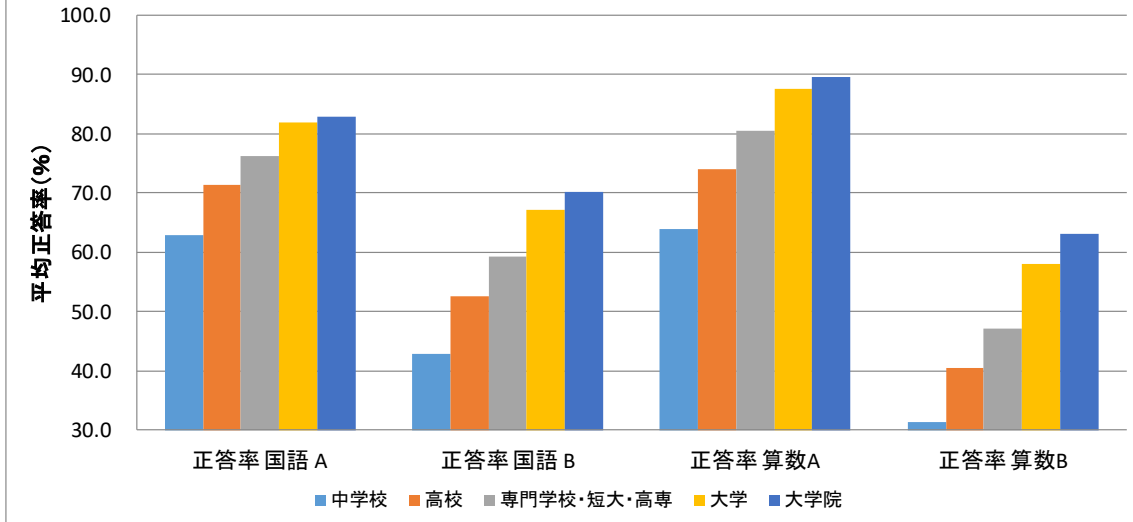
注) 国立大学法人お茶の水女子大学, (2018) 『保護者に対する調査の結果と学力等との関係の専門的な分析に関する調査研究』より作成。各科目正答率の平均(標準偏差)は、国語 A : 74.8(18.7)、国語 B : 57.4(24.2)、数学 A : 78.6(20.5)、数学 B : 45.9(23.9)である。

図2-2 父親学歴と学力との関係:中3
(2017年全国学力・学習状況調査の補完調査)



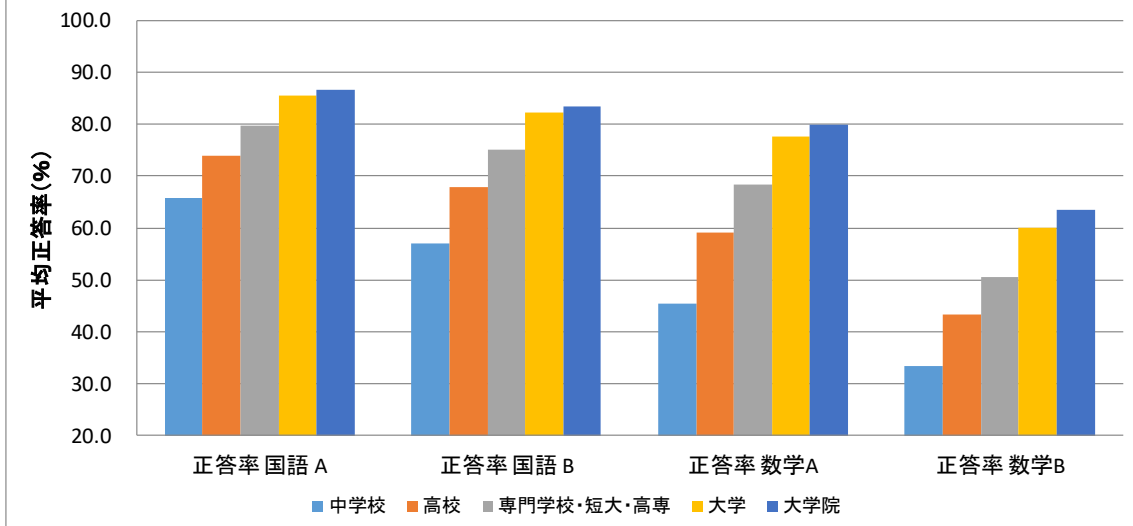
注) データ出典および各科正答率の平均・標準偏差は図 1 に同じ。

図3-1 母親学歴と学力との関係:小6
(2017年全国学力・学習状況調査の補完調査)



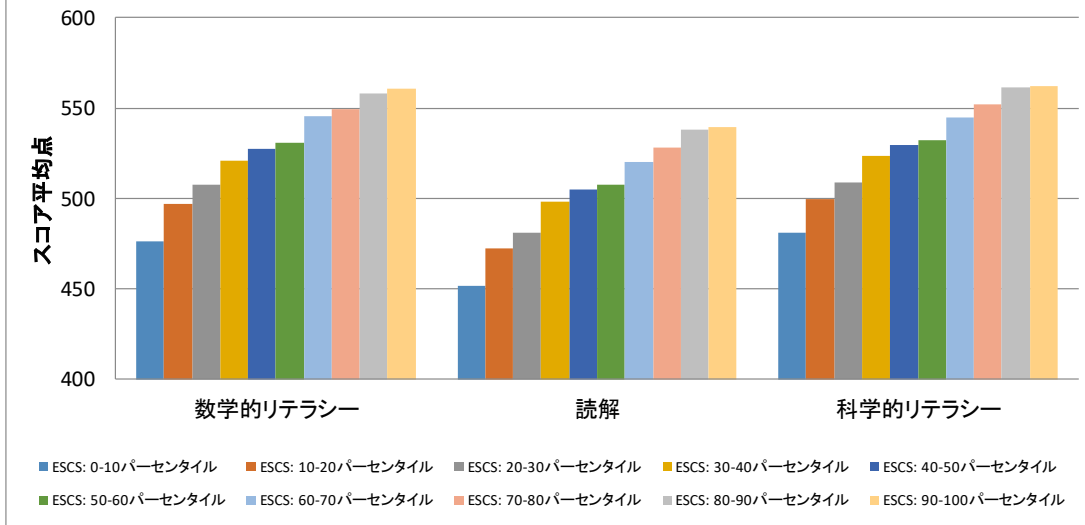
注) データ出典および各科正答率の平均・標準偏差は図 2-1 に同じ。

図3-2 母親学歴と学力との関係:中3
(2017年全国学力・学習状況調査の補完調査)



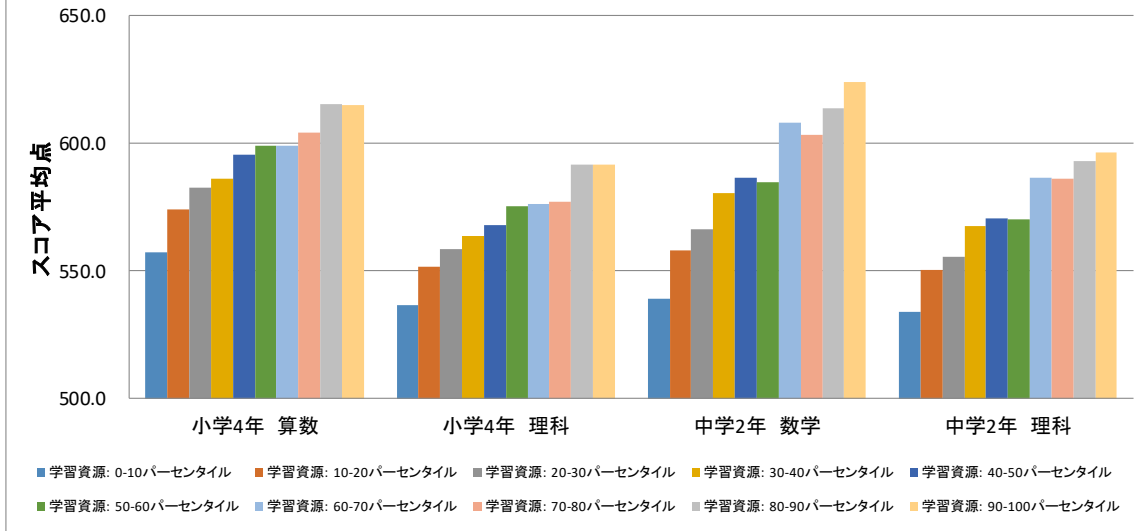
注) データ出典および各科正答率の平均・標準偏差は図 2-2 に同じ。

図4 社会経済的・文化的背景(ESCS)とPISA2018スコア



注) PISA2018 のデータより筆者が算出・作成した。家庭の社会経済的・文化的背景に関する指標 (Economic, Social and Cultural Status) に関する変数 ESCS の十分位点によって 10 のグループ分けし、グループごとに平均スコアを計算した。十分位点の計算の際には、加重変数 W_FSTUWT を用いた。「ESCS:10-20 パーセンタイル」は社会経済的・文化的背景において下位 10%~20%の範囲であることを意味する。日本のサンプルにおける各科目スコアの平均(標準偏差)は、数学的リテラシー527.0(86.5)、読解 503.9(97.1)、科学的リテラシー529.1(92.1)である。

図5-1 家庭の学習資源とTIMSS2015スコア



注) TIMSS2015 のデータより筆者が算出・作成した。家庭の学習資源については、家庭における蔵書数および所持物（自分の机、自分の部屋、携帯電話など）から項目反応理論によって算出した。家庭の学習資源の十分位点によって 10 のグループに分け、グループごとにスコア平均を算出した。十分位点の計算の際には、加重変数 TOTWGT を用いた。日本のサンプルにおける各科目スコアの平均（標準偏差）は、小学 4 年算数 592.8(68.7)、小学 4 年理科 569.0(64.9)、中学 2 年数学 586.5(88.9)、中学 2 年理科 570.9(74.8)である。

図5-2 両親最終学歴とTIMSS2015数学(中学2年)平均スコア

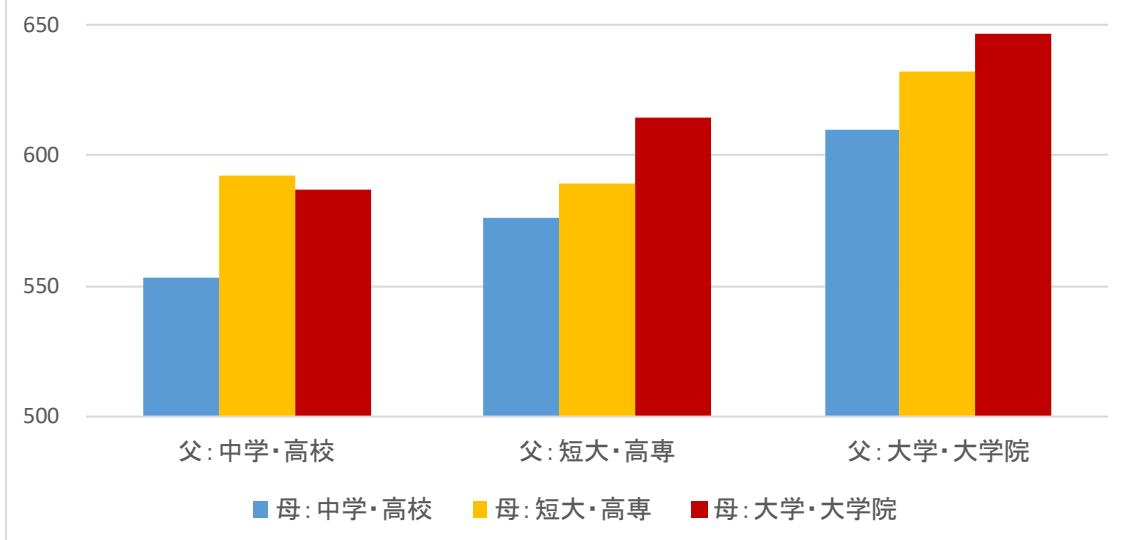
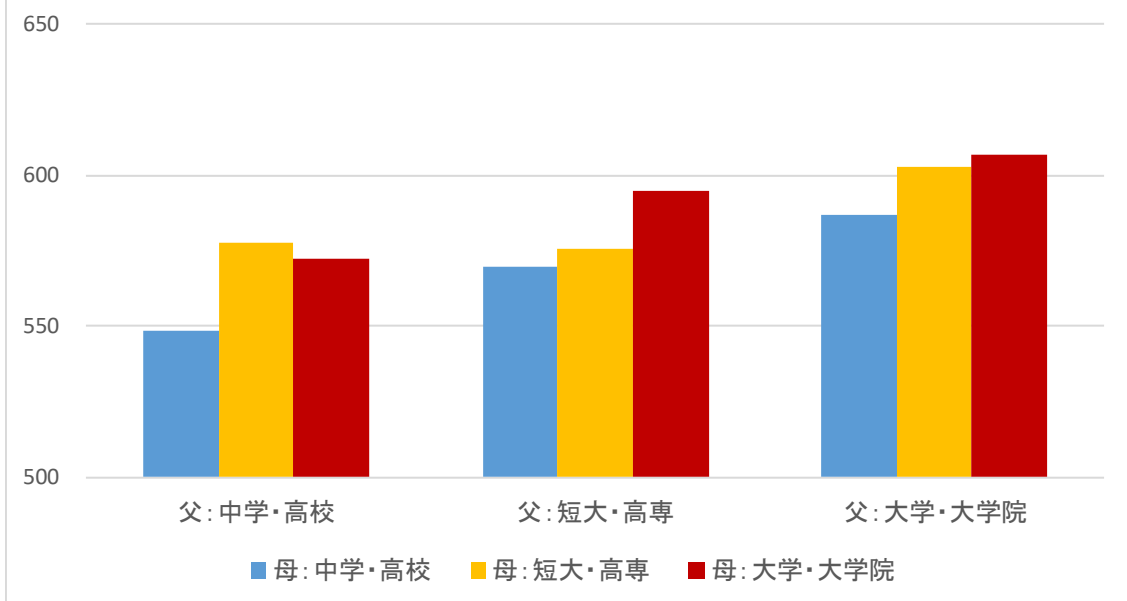


図5-3 両親最終学歴とTIMSS2015理科(中学2年)平均スコア



注) データ出典およびスコアの平均・標準偏差については図5-1に同じ。